

# 昭和大学新聞

学校法人 昭和大学  
 発行人 小口勝司  
 電話 (3784) 8000 内142-8555  
 東京都品川区旗の台1の5の8  
 1部 50円 毎月1回発行

## 放射線治療センターオープン

昭和大学病院放射線治療センターが10月1日、昭和大学病院に開設された。同センターの開設にあたり、昭和大学病院地下1階にリニアック(※1)が3台稼働可能なリニアック棟が竣工し、高精度放射線治療装置であるトモセラピーを導入した。今後は段階的に3台のリニアックを導入する予定である。

方向からがん病巣へ放射線を照射することにより、従来の放射線治療より、複雑な形をした腫瘍に合わせてコンピュータ制御で正確な照射が可能である。周囲正常臓器に対しては低線量に抑えることができるため、急性および遅発性の副作用を軽減することが可能であり、機器の特性から従来よりも短時間での治療を行える。

リニアック棟内で開催された同竣工式では、旗岡八幡神社の神主による神事が行われたのち、関係者による内覧会や祝賀会が催された。

■ 語句説明  
 ※1 リニアック…「直線加速器」と訳され、X線や電子線を発生させ、がんの治療に使われる放射線治療機器のこと。  
 ※2 強度変調放射線治療…放射線の「強度」をコンピュータ制御で腫瘍の形に適合するように「変調」することで、正常組織の照射線量を抑えつつ腫瘍部分への集中照射を行う治療法のこと。



昭和大学病院放射線治療センター  
 センター長 伊藤芳紀

高齢者の増加により、放射線治療の適応となるがん患者が増えたこと、薬物療法との併用や高精度放射線治療により治療成績が向上したことなどで、がん患者の放射線治療施行割合が増加しています。このたび、リニアック棟の開設と高精度放射線治療装置であるトモセラピーの稼働により、高精度の放射線治療を専門チームとして行う放射線治療センターを開設しました。当センターでは外部照射とともに小線源治療も含

めて放射線治療科医師、診療放射線技師、医学物理士、看護師の育成の場として、専門的なセンター化を計ることにより有機的な教育と先端的研究を行うとともに、臓器の機能・形態を温存し発病前のQOL※を維持したという患者さんの希望に応えられる治療を目指してまいります。

※ QOL: Quality of Life の略で、治療や療養生活を送る患者の肉体的、精神的、生活面などを含めた生活の質のこと。

## 11月号の内容

- 1面
  - 昭和大学病院放射線治療センターオープン
  - 令和元年度解剖慰霊祭
  - 昭和大学における共同研究
  - マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団 結団式
- 2面
  - 昭和大学大学院秋季修了式
  - 昭和大学大学院秋季入学式
  - 医学部白衣授与式
  - シリラトシワウオング講師とマイヤース講師 受賞
  - 笹間雄志さんが最優秀賞 受賞
  - 落合翔さんが優秀若手研究者賞 受賞
  - 大塚葵さんがSCRJP日本代表選抜大会 入賞
- 3面
  - 学生海外研修報告
  - 昭和大学薬学部卒業式・学位記伝達式
- 4面
  - 第59回旗ヶ岡祭 開催
  - ヒューマンライツ・トークショー 開催
  - 父兄会秋季部会 開催
  - 就任のお知らせ
  - 昭和大学サポート寄付金寄付者氏名・上條記念館座席プレート申込み状況

【問合せ先】  
 [本紙について: 総務課出版係]  
 03-3784-8059  
 press@ofc.showa-u.ac.jp  
 [各種募金・寄付・90周年事業について: 企画課]  
 03-3784-8387  
 [学事について: 学務課・大学院課・入学支援課]  
 03-3784-8022(旗の台)  
 0555-22-4403(富士吉田)  
 045-985-6503(横浜)  
 03-3784-8026(入学支援課)

## 昭和大学における共同研究 産学官連携により社会に貢献

「知の創造と活用を図ることに大きな価値が置かれる「知識社会」において、産学官連携は大学等の活性化と社会の発展に大いに寄与するものとして、その一層の充実・強化が求められている。本学でも、他大学、地域社会、企業等との連携を推し進めており、その成果を社会に還元し社会貢献につなげている。

胎児の血液型を判定する新しい出生前検査法を開発  
 9月9日、関沢明彦教授(医学部産婦人科学講座)らは国立成育医療研究センター等との共同研究により、少量の妊婦の血液から「胎児RhD血液型」を判定する新たな出生前胎児遺伝学的検査以下、「出生前検査」法を開発したと発表した。これまで、妊婦の血液を用いた胎児のRh式血液型検査は日本人の一部で特殊な遺伝子型の影響で難しくかつ

## 令和元年度解剖慰霊祭

令和元年度解剖慰霊祭が10月15日、上條記念館で実施された。解剖慰霊祭は医療の進歩のため、ご献体された故人の遺徳を偲び感謝する式典である。平成30年9月1日から令和元年8月31日までにご献体いただいた147柱の霊位が祀られ、ご遺族や教職員、学生が多数参列し、ご尊霊に黙祷が捧げられた。その後、参列者全員が祭壇に献花を行い、ご冥福をお祈りした。

自覚や人間性を培うためになくてはならない実習であり、ご遺体を通して命の尊さや私たちの進む道の責任の重さを深く感じました。医師を志す者としての自覚を持ち、より一層精進し、これからの実習に望んで参ります。ご遺族の皆さまの尊い思いを深く心に刻み限りない感謝の気持ちを捧げるとともに、ご献体いただきました方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



献花する学生

## マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団結団式

昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団の結団式が10月11日、上條記念館で行われた。本事業は、アフリカ大陸東部の島国、マダガスカル共和国で口唇口蓋裂に苦しむ子どもたちを助けるため、2011年5月から毎年行われていた。今回は9回目となる。マダガスカルには口唇口蓋裂の治療を行える医師がこれまでにいなかったため、現地医師の育成も事業の重要な任務の一つである。結団式には昭和大学関係者をはじめ、本プロジェクト発起人の曾野綾子氏、笹川記念保健協力財団の喜多川会長、駐日マダガスカル大使館の臨時大使が出席した。本学職員からは佐藤泰祥准教授(医学部形成外科学)

講座形成外科学部門を団長とする医師、歯科医師、看護師をはじめ、大学院生、学部生ら15名を派遣し、11月25日から12月10日までマダガスカル首都アンタナナリボガから約170キロ南下したアンチラペのクリニック、アヴェエマリア病院で、現地スタッフとともに手術や治療を行う。

口唇口蓋裂とは唇や上あご(口蓋)に生まれつき裂け目がある病態で、哺乳力の低下や言語障害などの問題が発生する。日本国内では年間約1,000人の乳児が治療を受けており、アジ



マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団結団式

歯髄幹細胞を活用した骨関連疾患の治療法創出  
 9月10日、石川敏司助教(医学部整形外科学講座)らが株式会社ジーンテクノサイエンスと、歯髄幹細胞を活用した骨関連疾患の治療法創出について共同研究契約を締結した。本研究は再生医療事業の基盤となる歯髄幹細胞を活用して、骨関連疾患等に対して新たな治療法の創出を実施した。

歯周病菌の増殖を抑制する化合物を発見  
 9月19日、田中信忠准教授(薬学部基礎薬学講座)生体分析化学部門、合田浩明教授(同講座)生物物理化学部門、岩手医科大学薬学部の阪本泰光准教授、關谷瑞樹助教(同、長岡技術科学大学)の小笠原渉教授、長岡工業高等専門学校教授の鈴木義之特命助教、JAXAの山田貢主任研究開発員らの研究グループは、2015年に発表した歯周病菌DPP11の立体構造の解明に

本学は、歯周病菌や多剤耐性菌などの糖非発酵性病原菌に対して、これまでにない仕組みで作用するNFGNR(糖非発酵グラム陰性細菌)に特異的な抗菌薬の開発に結びつくと考えられる。

アフリカの国々では、貧困などにより、十分な保健医療サービスや治療を受けられない子どもたちがたくさんいる。